

令和元年10月8日(火) 10:00～
諏訪市文化センター 第二集会室

第1回 諏訪地域の高校の将来像を考える協議会 議事録

次 第

- 1 開 会
- 2 協議会設置の趣旨説明
- 3 協議会の設置要綱及び構成員の確認
- 4 自己紹介
- 5 会長、副会長の選出
- 6 協議事項
 - (1) 「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」説明
 - (2) 質疑応答及び意見交換
 - (3) 協議会開催スケジュールについて
- 7 その他

○第2回日程 日 時 令和元年12月10日(火) 午前10時から
会 場 諏訪市文化センター

- 8 閉 会

【議事録】

1 開 会 全体進行（事務局）

- ・会議は公開 マスコミ各社、一般傍聴希望者を認める（傍聴者 12名）
- ・資料確認
 - ①次第 ②座席表 ③高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針 ④「高校改革～夢に挑戦する学び 実施方針」について（概略版） ⑤「学びの改革 基本方針」 ⑥高校改革～夢に挑戦する学び～ ⑦高校改革～夢に挑戦する学び～旧第7通学区の状況について ⑧旧第7通学区中学校卒業生数の予測 ⑨座席表

2 協議会設置の趣旨説明

（県教委）趣旨説明

- ・諏訪地区6市町村の代表の諏訪市教委員会と県教育委員会との共同で事務局を運営する。
- 資料③「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」<2018（平成30年）9月長野県教育委員会 刊>
 - － 「はじめに」 P1参照 －
 - ・これからの社会を担う子どもたちには、変化に翻弄されず、変化に取り残されず、未来を切り拓いていく力と勇気、さらには、社会の担い手として主体的に社会と関わり、仲間と協同して社会を創っていく、いうならば「新たな社会を創造する力」を学びの中で培っていく必要がある。
 - ・長野県の高校教育が目指すべき3つ方向性
 - ①自ら立てた問いに対し、チームとして協同しながら解を見つけ、新しい価値を主体的に創造していくことができる資質・能力の育成。
 - ②「一度しかない人生を自分はどう生きたいか」という自分の人生を構想する力（キャリアデザイン力）の育成。
 - ③信州に根ざした確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野、資質・能力の育成。
 - ・2017年（平成29年）3月に全県の高校のあり方に係る基本理念・方針となる「学びの改革基本構想」を策定した。
 - ・2017年（平成29年）には、「基本構想」で示した高校改革に係る全県の基本理念・方針について、旧12通学区ごとの地域懇談会や、産業界・大学関係者、郡市の中学校長会、中学生・保護者との意見交換会を行って、広く県民の意見を聞き、議論を深めた。
 - ・2018年（平成30年）3月に「基本構想」の考え方をより具体化した「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針（案）」を公表し、パブリックコメント等で県民の意見を聞きながら、2018年（平成30年）9月に「高校改革 ～夢に挑戦する学び～ 実施方針」を策定した。
- 資料④「高校改革～夢に挑戦する学び 実施方針」について －（概略版1枚）参照－
 - ・「すべての生徒が自ら夢を見つけ、夢に挑戦する学びの実現をめざして」に6つの方針がまとめられている。左側に「新たな学びの推進」、右側に「再編・整備計画」が示さ

れている。後ほど「新たな学びの推進」については内堀参与より、「再編・整備計画」については、駒瀬係長より説明する。

- ・「再編・整備計画」では、旧12通学区ごとに協議会を設置し、将来の整備計画に対して県教委に意見・提案をいただく。
- ・協議会の委員構成としては、市町村長、教育長、産業界、地域振興局、地域の実情に応じた者、PTA代表、高等学校校長会、中学校校長会にお願いしている。
- ・少子化に伴い、諏訪地域の高校にどのような魅力を持たせるか諏訪地域の高校の将来像について、多角的、多面的に議論していただきたい。
- ・上伊那地区では、終了し、高校教育についての提案がなされた。高校教育についての理解が深まったという意見をいただいている。

3 協議会の設置要綱及び構成員の確認

(事務局) 設置要綱及び構成員について

「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会設置要綱」(資料①「次第」参照)

- ・第2条により委員を選出する。
- ・第3条 任期は協議会の設置目的を終えるまでの期間、県教委に意見・提案をするまでの期間。来年度までを予定。

4 自己紹介

○「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会」委員名簿(資料①「次第」)

- ・自己紹介 委員24名(2名欠席 小池玲子氏、赤羽秀俊氏)

5 会長、副会長の選出

- ・「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会設置要綱」第4条1項
会長1名、副会長2名を置き、互選により選出

○会長 金子ゆかり 諏訪市長

○副会長 今井竜五 岡谷市長

○副会長 五味康剛 原村教育長

～正副会長挨拶～

○会長 金子ゆかり 諏訪市長

- ・日本中が人口減少の時代。十数年後には、諏訪地域の中学校の卒業生が五百数十名減になる。グローバル化の浸透や、IT革命により高校や地域の子どもにどんな力を身に付けていくか、大きな課題を担うことになる。令和の時代は、教育の改革ができるか分水嶺になると言われている。将来の指針となるものを見出していきたい。

○副会長 今井竜五 岡谷市長

- ・地域の子どもの夢や希望につながり、将来を描ける高校づくりにつながる協議会にしていきたい。

○副会長 五味康剛 原村教育長

- ・本年度、諏訪教育長部会の会長をしている。諏訪の子どもが健やかに育ち、将来を描ける高校づくりになるように会長を助けていきたい。

6 協議事項（進行 会長）

（県教委）(1)「新たな学びの説明」の説明

○資料⑥「高校改革～夢に挑戦する学び～」(パワーポイントにて説明)

1 これからの子どもが生きていく時代・社会

- ・変化の激しい時代ーグローバル化の加速 ・少子化・超長寿命化 ・インターネットによる変化の激しい時代、・正解のない時代を生きていく。
- ・新たな社会を創造するためにどんな力を育ててくべきか。

ー 今日の話題 ー

① これからの子どもたちが生きていく時代・社会

② これからを生きる子どもたちに育てたい力

③ 「育てたい力」を育てるための県教委の方策

（新しい「学び」と、多様な「学びの場」「学びの仕組み」の創造

④ むすびに

2 (1) これからを生きる子どもたちに育てたい力 (1)ー「生きる力」(文科省)ー

- ・知識・技能(狭義の学力、かつての学力のイメージ)
- ・これからのすべての学校で育てるべき学力 ⇒ 真の学力 = 学力の三要素
(①知識・技能、②思考力・判断力・表現力等、③主体性、多様性、協働性)
- ・狭い学力ではなく、学力の三要素を含んだ真の学力をバランスよく育てていく。

(2) これからを生きる子どもたちに育てたい力 (2)

①自ら立てた問いに対し、チームとして協同しながら解を見つけ、新しい価値を主体的に創造していく資質・能力

②「一度しかない人生を自分はどう生きたいか」という自分の人生を構想する力
(キャリアデザイン力)

③信州に根ざした確かなアイデンティティと世界に通じる広い視野、資質、能力

3 「育てたい力」を育てるための県教委の方策

○「県教委『高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針』から

<「新たな学び」と「新たな学校づくり」を一体推進>

(1)新たな学びへの転換

- ・探究的な学びの推進
- ・学校ごとに3つの方針の策定と運用(生徒育成方針、教育課程編成・実施方針、生徒募集方針)
- ・高校入試制度改革など

(2)多様な学びの場、学びの仕組みの整備充実

- ・新しいタイプの学校の充実拡大
- ・多部制単位制の充実拡大・通信制の改革を柔軟に対応

- ・モデル校（研究校・実践校 6校）指定・実践・研究
- ・ICT（EdTech）積極的活用
- ・高校間連携、高大連携推進など

(3)新たな学びにふさわしい環境の整備

- ・学習環境・生活環境の整備（空調設備、様式トイレなど）⇒「学習空間デザイン検討委員会」
- ・ICT環境の整備充実（電子黒板、タブレット等の導入推進）

(4)少子化の進行への的確な対応

(5)多様な学びの場を全県に適切に配置

(6)地域の検討を受け、再編整備計画策定

○新しい「学び」の創造

(1)「探究的学び」の導入＝「主体的・対話的で深い学び」

- ①探究活動の導入 ⇒ 課題設定→情報収集→整理分析→まとめ・表現
- ②授業 ⇒ 自立的・主体的な学び+協同的学び（子ども同士で教え合う）
- ③特別活動 ⇒HR、生徒会、部活動等全ての活動を探究的に

(2)「個別最適な学び」⇔「探究的な学び」

- ・テクノロジーを導入し、タブレットを使って、個別に対応し、自分のペースで学習する。AIや民間企業の活用。

(3)多様な「学びの場」の創造

①様々なタイプの学校を設置

- ・普通科を含めすべての高校で3つの方針の策定、特色化、魅力化
- ・総合学科・総合技術高校の充実拡大
- ・多部制単位高校の充実拡大
- ・通信制高校の改革→自由度とサポート体制（望月サテライト校の設置等）

②様々なタイプの学校

- ・通信制の改革の具体像→EDTECHを活用した「個別最適な学び」
 - 希望により毎日登校可も可能
 - 「探究的な学び」（探究活動）
 - 社会や人とのつながりも重視

(4)「研究校の指定」⇒先進的・先端的学びを追究

- ・SSH、SGH4校に加え、新たに国のモデル校指定。（地域協働3校）
- ・「スーパー探究校」「信州グローバルハイスクール」「国際カリキュラム研究校」「高度産業教育推進校」「少人数学級研究校」等

(5)多様な「学びの仕組み」の創造 ～高校間連携～

- ・入学した学校以外の他校の授業に参加し、単位がとれる。
- ・教員が他校の授業を相互に担当
- ・学校外の学修（検定試験、ボランティアに加え、自分で立てた学習計画も）積極的に単位認定。ICTの企業に行つての学びも単位認定。
- ・遠隔通信により、他校の授業を自校で聴講、単位認定。
- ・生徒の状況により、従前より容易に他校へ転校できる仕組みを研究。

(6) 多様な「学びの仕組み」の創造 ～大学や企業・地域との連携～

- ・高大連携プラットフォームを県庁内につくる。
- ・全県の生徒が集中講義やイベントに参加できる学びの場の創出。
- ・全県の高校生が参加できる発表の場・目標の創出。
- ・プロジェクト型探究活動
今年初めて全国大会につながる「MY PROJECT AWARD 2019」
長野県大会を実施。

(7) 全県の高校生に対する海外留学支援制度の創出

- ・「信州つばきプロジェクト」(海外での学び推進事業)
- ・県企画プロジェクト65人、個人留学支援(長期留学10人、短期留学90人)

4 むすびに ～これからの学校・これからの学び～

○「生徒一人ひとり(の学び)を本当に大切にする」の徹底追及

- ・子どもたちがペースを決めるのではなく、子どもたちが自分のペースで行う学び
- ・子どもがランナーで、教員は伴走者。学校は学びが成立する場所。
- ・社会と一体的で、多様な人々と協同する「学び」

○大人の一番の役割

- ・次代に生き、次代を担う子どもたちが、これからの時代を生きる力、新しい社会を創っていく力を身に付けられるような環境を整備すること。

(2)「再編・整備計画」の説明

(県教委)資料⑦「高校改革～夢に挑戦する学び～ 旧第7通学区の状況について」(パワーポイントにて説明)

1 改革の必要性① 変化の激しい社会への対応

- ・変化の激しい社会への対応 「適応する力 + 創造する力」

2 改革の必要性② 少子化への対応

- ・2034年(令和16年)には、旧第7通学区の卒業生は、2018年と比べて、654名に減になる。高校1クラス40名として、145学級の減になる。

3 「高校改革～夢に挑戦する学び～」のアウトライン

- ・高校改革の二つの柱 ○社会の激変への対応→新たな教育の推進(学びの質の充実)
○少子化への対応→新たな高校づくり(学びの基盤を整備)

4 「都市部存立校」の再編基準について

- ・都市部存立普通校 望ましい規模 6学級以上
→再編対象 在籍生徒数 2年連続 520人以下
- ・都市部存立専門校 望ましい規模 3学級以上
→再編対象 在籍生徒数 2年連続 280人以下

5 「中山間地存立校」の再編基準について

- ・中山間地存立校 望ましい規模 3学級以上

→再編対象 在籍生徒数 120人以下 もしくは
在籍生徒数 160人以下 かつ 卒業生の半数以上が入学している中学校が
ない状態が、2年連続

6 旧第7通学区中学校卒業生数の予測

- ・旧第7通学区中学校卒業生数は、2018年～2034年までに約650名減少する。2018年の卒業生数の約66%。
- ・中学校卒業生数は、2025年～2030年 2031年～2030年で減少。
- ・中学校卒業生数は、2019年（令和元年）では、1,773名。2034年（令和34年）では、480名減の1,286名になる。

7 旧第7通学区県内県立高校への流入及び流出数

- ・流入は約230名、流出は約70名。

8 旧第7通学区県内他地域私立高校への入学者数

- ・旧7区以外の県内の私立高校へ約100名が進学。主に11区の私立高校を中心に進学。

9 旧第7通学区県外高校への入学者数

- ・県外高校へ約90名が進学。主に山梨県の高校に進学。

10 旧第7通学区の高校について

- ・都市部存立普通校→岡谷東【普通科（3）】、岡谷南【普通科（5）】、下諏訪向陽【普通科（5）】、諏訪二葉【普通科（6）】、諏訪清陵【普通科（6）】
- ・中山間地存立校→茅野【普通科（2）】、富士見【普通科（1）農業科（1）】
- ・都市部存立専門校→岡谷工業【工業科（5）】、諏訪実業【商業科（3）、家庭科（1）】
【定時制 普通科（1）】

11 旧第7通学区の募集学級数の予測

- ・2019年度の旧第7通学区の募集学級数は38学級
- ・令和元年の募集学級数は1,773人で、令和16年の募集学級数は1,286人と、約500名の生徒が減る。
- ・旧第7通学区全体で11～12クラス減少する。

12 旧第7通学区の再編計画の現況・課題

- ・中学校の卒業生数が2030年には2017年の76%まで減少する見込みである。
- ・隣接する旧第8、第11通学区との間で、170人程度の流入超過となっている。
- ・県外への流出が多く、山梨県を中心に県外へ90人程度が流出している。
- ・中南信地区の私立高校を中心に県内私立高校へ250人程度が進学している。
- ・諏訪市、下諏訪町、岡谷市に募集定員160人～240人の都市部存立普通校が5校配置されているが現状の配置のまま推移すると、少子化の進行により学校規模が縮小し、都市部存立普通校として十分な規模が確保できなくなることが考えられる。
- ・農業、工業、商業、家庭の各専門学科が分散しており、今後の少子化の進行の中で、学科の一層の小規模化が危惧される状況にある。

13 旧第7通学区の再編計画の方向性

- ・隣接県に流出が多い中で、地域の中学生の期待に応える学びの場を整備していく必要がある。
- ・この地区の今後の少子化の進行を考えると、再編の実施を前提に地域の高校の将来像を考えていく必要がある。
- ・専門学科の小規模化が想定される中で、専門教育の活力を維持充実していく必要がある。
- ・都市部に適正数を考慮しながら規模の大きさを活かした都市部存立校を配置するとともに、学びの場の保障の観点を踏まえながら中山間地存立校を配置していくことが考えられる。
- ・その際、総合技術高校の設置等により専門教育の維持充実を検討していくことが考えられる。

14 「高校改革～夢に挑戦する学び～」のスケジュール

- ・「高校の将来像を考える地域の協議会」の設置は県下12地区のうち諏訪は10番目。
- ・2020年3月に「再編整備計画（一次分）」を策定し、2021年3月に「再編整備計画」を確定する。ゴールは2030年3月。

(3) 質疑応答及び意見交換

発言者	内容
委員	<p>・大学も同じ悩みを抱えており、参考になる。内堀参与がP1で「変化の激しい時代」と説明されたが、何故激しい時代になったと考えるか。私が考えるには、インターネットの出現が大きく、現在は集合的知性の時代。お互いに刺激し合って集合的天才が生まれる。産業革命やイタリアのルネッサンスでは、局所的な天才が生まれたが、今は世界的な天才が生まれる。第四次産業革命と呼ばれ、イノベーションや新しいものがどんどん生まれている。この時代を生きるには、主体的に生きること、自分で変化を起こそうとする等、集合的知性に入っていき教育をしていくことが大切。もう一点、これからの学びを変え、知識優先から主体的な学びに変えたり、プログラミング教育を取り入れたりすると、時間が増えるが教育する時間をどうするか。自分の考えでは、知識はインターネットでとれるので知識量は減らして、主体的な学びに時間を割く方がよい。効果的な学習としては、アクティブラーニングが有力で、講義では5%しか身につかないが、アクティブラーニングでは20%が身につくという報告がある。自分たちで教え合うことも大切で、教えることで80%が身に付くと言う報告もある。アクティブラーニングを教育に利用することはよいと思われる。</p>

県教委	<ul style="list-style-type: none"> ・同感で、1点目はインターネットの発達で同時的に見られ、科学技術の発達が激しい変化をもたらした。2点目は、高校教育は学習指導要領のしぼりが少なく、34単位をとれば卒業できる。大学入試もAO推薦入試が3割を超えるなどペーパー入試は終わり、思考力、判断力、表現力が重視され、昔ほど大学入試の準備をしなくてもよくなってきている。生徒の家庭学習の時間が少ないのが課題だが、やらされている学習から自ら学ぶ学習に変えることにより、割ける時間はある。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・一つ追加で、入学してきた学生の入試の結果と成績の相関を調べてみた。どういう学生が伸びるかというところやる気のある学生が伸びる。専門教育では、1年生の前期までは入試と相関関係があるが、伸びる学生はやりたいことを持っている。高校でも育ててほしい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・学ぶ内容が変わってくると、先生も変わらなければならない。子どもの数が減ってくると、学校の先生も減ってくる。22歳の先生は15年後に37歳になる。採用計画では、採用を見越して減らしているのか。
県教委	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が減になれば、教員数も減ってくるような新規採用計画を立てている。
会長	<ul style="list-style-type: none"> ・ソフト面の学び、教育の内容を変えていく「新しい学び」についてはどうか。
県教委	<ul style="list-style-type: none"> ・既に新しい学びは導入している。プロジェクトや授業公開、先進校の知見を生かし、教員の資質は高まっている。

(3)協議会開催スケジュールについて

発言者	内容
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会」 P5協議日程案を参照 「諏訪地域の高校の将来像を考える協議会」は、2ヶ月に1回開催する。PTAや高校関係者の意見聴取をし、2020年3月までに再編整備計画（一次分）を策定する。9月に意見書の素案を策定し、2020年3月から意見聴取（パブリックコメント）をする。11月に意見書の成案を作成し、12月に意見書の成案を県教委に提言する。2021年3月の高校再編・整備計画（確定）に向けて意見提案をしていく。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・意見書には何を盛り込むのか。この高校は残して、この高校は廃止するといったことを入れるのか。

事務局	<p>資料③「高校改革～夢に挑戦する学び～実施方針」のP22～23参照</p> <p>ア 検討内容 「実施方針」に基づいて検討を行い、旧通学区内の将来を見据えた高校の学びのあり方と具体的な高校の配置について、県教育委員会に対して、意見・提案を行う。</p> <p>・具体例を出すことは想定していない。出された意見を提出していく。</p>
-----	--

7 その他

- ・第2回日程 日時 令和元年12月10日（火）午前10時から
会場 諏訪市文化センター

8 閉会